

カトリック 仙台教区報

2009年5月10日 No.187

発行

カトリック仙台司教区

〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12

Tel (022) 222-7371 Fax(022)222-7378

発行責任 広報委員会

URL ; <http://sendai.catholic.jp/>

復活のいのちに招かれた私たち

復活の主日ミサ説教から
仙台教区長 マルチノ 平賀徹夫司教

「主・キリストは十字架上で死なれたが、死からの復活を通して、私たちをその復活の命にあずからせるためにお招きになり、その命を生きるようにいつもわたしたちと共にいてくださる」、これがキリスト教の信仰、私たちの信仰の中心です。神を知らない生き方ではなく、主と共に新しい命を生きる生き方です。

主キリストは死に打ち勝ち、新しい命に復活されました。この復活ということとは人間の知恵が考へ出し得たものではありません。聖書そのものが言っています。

「目が見もせず、耳が聞きもせず、人の心に思い浮かびもしなかったことを、神はご自分を愛するものたちに準備された（一コリ2・9）」と。実際、人間の能力を頼みとして知恵を探し求める者にとっては、十字架の言葉は「おろかなもの」であり（一コリ1・23）、あざ笑うべき対象でしかありませんでした（使徒言行録17・32）。これは現代の人間にとっても同じことかもしれません。愛である神を信じ、その神を愛する生き方

を選ぶことに開いているのであれば、人間が知恵をどんなに振り絞ったとしても、「復活」は理解できる枠を超えていることだ



聖香油ミサに集まった仙台教区司祭団

からです。

しかし私たち信者は、「主は、聖書にあるとおり復活なさった。そして今、いつでも、またどこであつても、復活の主はわたし（たち）と一緒にいてくださる」との

確信を持って喜び合うことができます。私たちは、全世界のために、いわば全世界の人々を代表して、大喜びしながら、神様をたたえるためにここに集まりました。

第一朗読の使徒言行録でペトロはこう告げています。「イエスは、御自分のことを人々に力強く証しするようにと、わたしたちにお命じになりました。また預言者も皆、イエスについて、この方を信じる者はだれでもその名によって罪の赦しが受けられる、と証ししています」。

私たちは預言者や使徒たちを起源とするその証しに触れ、それを信じ、受け止めました。そして聖パウロはコロサイ書で「あなたがたは、キリストと共に復活させられたのです。あなた方は死んだのであつて、あなたがたの命は、キリストと共に神の内に隠されているのです」とキリスト者の有り様を教えています。

「人はキリストと共に死に、キリストと共に新しい命に復活させていただき、神のうちに生きるものとなる」。私たちは、この証言を受け入れてキリストに帰依し、洗礼を受けました。わたしたちは十字架に付けられて死んだキリストに結びつけられて、神の思いに逆らい続ける罪に対して

は死んだもの・縁の無いものとなつたのだ、そして、死から復活されたキリストにつながって復活の命に新しく生まれさせていただき、いつも神のみ前で生きるものとなつたのだ、ということを受け入れました。光である復活のキリストと結ばれ、光の子として生きる者とならせていただいたのだ、ということなのです。

このわたしのような弱い人間にそのような光の子として生きるなど、できるのでしょうか。：『できます』。十字架上で死んで、復活された主キリストを信じる信仰がそれを保証します。ただそれは、人間が自分の力でできることではなく、キリストに結ばれた者となつて、キリストの力を頂くからできるのです。わたしたちが、自分とは本心に弱い・至らない者であると自覚しているのであれば、むしろ、それこそ幸いです。そんなわたしが、光の子として生きる業、愛の業をなし得るとすれば、それは自分の力ではなくキリストの力がわたしを通して現れたのだと考えるしかありませんから、キリストの力が、弱いわたしを通して現れる、わたしはキリストが望まれるように使っていただけなのだということがわかる。こうして私たちは共にいてくださるキリストへ

を体験することができません。それは「わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいる」との復活の主・キリストの決定的な約束は本当だ、との確認となりますし、復活の主が、「このわたしと、今、共にいてくださる」ということの証しともなることです。私たちは神に似た者として創造されたから、賦与されているすばらしい才能・能力を存分に発揮するよう努めるのですが、さらに、いつも主と共に歩む新しい生き方を心掛けたと思います。復活の主に対して「あなたならどうなさ

復活徹夜祭で会衆を祝福する平賀司教



るでしようか？ 私がどうするのをお望みですか？」と語りかけ、答えを謙遜に聴きながら生きる生き方です。 昨晩、洗礼・堅信・聖体の秘跡を受けて新しく神の家族に加え

られた方々がたくさんおられます。この聖堂では24人、そして今日これから幼児洗礼を受けられる方が3人。この方々も、既に洗礼・堅信を受けている方々も、皆主キリストのうちに一つに結ばれ、キリストの一つの体として、世に対して復活された主キリストを証しする、別の言葉で言えば、神の愛を証して生きるように呼ばれた私たちであります。ともどもに、一つのキリストの体に集められた者であることを喜び合い、復活された

司教日程

5・6月

- 5・16 殉教者列福感謝ミサ (米沢)
- 25 教区司祭団月例会
- 29 部差別人権委員会定例会
- 31 聖霊降臨祭 元寺小路教会
- 6・12 部差別人権委員会事務局会議
- 15 20 定例司教総会
- 26 財政問題評議会
- 29 教区司祭団月例会・責任役員会

主キリストを一緒にたたえましょう。

♪シンポジウム♪
すべての人の人権を大切に
主催・日本カトリック

社会司教委員会
【第2回】 7月11日(土) 14時

仙台教区カテドラル

元寺小路教会大聖堂

発題者 谷大二司教

(さいたま教区)

菊地 功司教

(新潟教区)

平賀 徹夫 司教

(仙台教区)

司会 松浦 悟郎 (大阪教区)

人間の尊厳を基盤にした信仰をいっそう深め、それぞれがおかれた場で、一人ひとりの人とすべての民族の権利を等しく尊重する社会を構築するよう努力することを願っています。(岡田武夫大司教の談話) 仙台教区の皆様の参加をお待ちしています。(平賀司教)

「世界召命祈願の日」

司教 マルチノ平賀徹夫

「ぼくが 神父様になるときまで 司教様 元気でいてください」 この前 ある小教区での主日ミサ後の 話会で小6にな た の元気な声が き 大きな 手が起こりました 本当に うれしくなる頼もしい表明でした

復活節第4主日(今年は5月3日)は教会の「世界召命祈願の日」 教 ベネデ クト16世からのメッセージが教区内全小教区に けられていますから 皆さん お読み(お聴き)にな たことと思えます テーマは「神の呼びかけを信じること すなわち人間の 答」 教 様は「働き手を送 てくださるよう に 収穫の主に願いなさい」とのイエス様のお言葉(マタイ9・38)を引用してわたしたちに 的に「祈 てください」と呼びかけています また「より親しくご自分と働く人を 収穫の主 は絶えず求め続けておられます」として 神は人間の自 な前向きな 答を求めているのです とも言われます の表明はこの前向きな 答です ほかにも 以前から司祭になりたいとの希望を表明してくれているいま中学生の 大学生とな たM もいます 神からの呼びかけは確かにあり 私たちからの 答が待たれているのです

「世界召命祈願の日」は修道者(献生活)の召命も考え その 恵みを願い求める日でもあります 教 メッセージは続きます 「司祭職及び 献生活への召命は 神からの特別なたまものです それは一人ひとりの人間と全人 のための 愛と いの大なる神の計画の一部とな ています」

献生活を し 仙台教区内の修道院でいま 願者として歩んでいる若い女性もいます 少なくとも二人を私は知 ています この方々を支えるためにも そしてまた 教区の上に神のご計画の い 実現を見ることができるよう この「神からの特別なたまもの」を熱く願い求めて 教区あげて引き続き祈 ていただきたいと思ひます

生命の泉

鯖江豊の「肉食の思想」の中に、ヨーロッパを歩くとどんな町にもおらが町の聖人がいることに気づく。その聖人の祭りは、

クリスマスや復活祭よりもっと盛大に祝われ、多神教の感じがあるほどだ。▼桜の花が盛んな4月半ばに水沢に後藤寿庵の遺跡を訪ねた。彼の治水事業は、見事に継承され、みどりの滴る豊かな里になっていた。寿庵が本当にキリスト者として偉人であったことを実感し、福者の列に叙せられなかったのは残念だと思った。▼まことのキリスト者と思つたのは、①神社などに祀られていず人格化されていなかったこと。②川からの水が円形の水槽に引き込まれ、水門と水路の幅によって公平に分配され円満な解決がはかられ、農民は安心して農作業を営むことが出来たであろうこと。③広く地形を利用し、設計も工事も未代まで修正の必要がなかったこと。④大名からお金を借り始められたという事業が迫害で身を隠した後まで返し続けたという誠実さ。など、仙台教区に誇るべき信仰者がいた。(守)

*今回より執筆は佐藤守也師

活きいきとした教区作りを求めて

「仙台教区宣教司牧評議会」開催

カトリック仙台教区宣教司牧評議会が2009年3月20日(火)司教区センター 会議室において開催された。

出席者は、平賀司教、佐藤守也師、梅津明生師、小松史朗師、(青森)川崎忠紀師、里村智彦氏、砂田昭子氏、(岩手) 田中丈夫師、玉熊伸子氏、飯塚豊氏、(宮城) 小野寺洋一師、岡田耕二氏、山田務氏、(福島)板垣勤師、市川嘉祐氏、真部賢二氏、(修女連) Sr.小針千代(聖ウルスラ会)、Sr.青木節子(女子パウロ会)(司教直任)アントニオ・クビヤス師(ラ・サール会)の計19人。

開会の祈りに続いて平賀司教は「年に2回の定例会には各県、各地区、各会の代表者が集まっています。教会法によると「宣教司牧評議会のメンバーは教区を構成する神の民全体を代表すべく、教区内の諸地域、社会的身分及び、職業の多様性並びに、個人または団体として使徒職上有している役割を考慮して選出される」と記されています。これは、ここに集まる我々が教区であることを表しています。そして、教区としての皆さまへのわたしからの願いは、次の二つのことです。

第一に、わたしたちは本当に信仰を喜ぶ者であり、その意味でも

つともつと共に成長したいのだという事です。その

ための一助として、教区活性化研修会を7回やってきました。これは、わたしたちは教会であり、わたしたちは神の民であり、互いに兄弟であつて、神のいのちに預かる者として呼ばれていることを共に喜ぶものとして再確認することであり、このことをもつと成長できたらと思つています。

第二に、教区内で働く司祭の数が減つていくことから、その分一人の司祭の担当する教会の数、地区が増えています。これまでの司祭は司牧する者、信徒は司牧される者の時代は続かないことを現しています。これからは司祭も信徒も我々は神の民として支え合いながら、司祭が広範囲で司牧するのであれば、信徒もそのことを受け止めて、広く動くことを自覚して欲しいと思ひます。司祭の働く場は全県一区になつてきています。信徒も全県一区であつて欲しいと願つています」と挨拶した。

▼小松師を議長に選出し議事に入った。

【議案1】「今年度の教区活性化のための研修会を受けて」

今年度の教区活性化研修会について各県からの報告がなされた。

青森県・11月に2カ所で開催。津軽地区70名、津軽地区南部地区50名 計120名が参加。

・信仰の先達の話が聞けた。・教会に来る人に対して、気配り目配り、心配りが大切であることが分かつて良かった。・分ち合いを通して福音中心の共同体に変えなくてはならない。・信徒同士の出会いの場として、司教の話しを直接聞く場としても貴重である。

岩手県 ・2月11日100余名参加。・司教の話し、レジユメの事前配付が好評。・初めての分ち合いが新鮮で良かった。・日曜以外の開催が良かった。

・岩手は司教と会う機会が少ないので、講師は司教が良い。

宮城県 ・2月15日開催。110名程の参加。分ち合いに参加した方にアンケートを採り、報告書作成。今後小教区に配付する予定。・アンケートの結果、今後の開催希望は60%位。・このままの継続は問題がある。・方向性が内向き・テーマに具体性が欠けている。・参加者数は横ばい。参加者が固定化してきている。・司祭、修道者の意識が低い。・休みを入れて、出直してはどうか?・マイナーチェンジではなく、休んでフルモデルチェンジの見直し時期に来ている。

福島県 ・11月16日開催。参加者は68名

・大きな教会が不参加のため人数であつた。大きな教会も教区の行事に合わせて欲しい。・研修会がなくなれば、横のつながりがなくなる。・開催側の真剣さが参加者に

伝わっていない。・マンネリ化しているためか参加者も減少。・活性化のイメージが掴めていない。活性化するプロセスが動機付け(研修会)だけで終わっている。小教区で花開く部分がないのでは。・修道者の参加は少ない。・参加した人もしない人もその後、映画できる研修会にして欲しい。・各小教区の取り組みの意見交換の時間をもつと取つて欲しい。▽各県の信徒、司祭、修道者の意見を聞いた後、意見交換をし、次の3つの意見に集約された。

①今年度もやる方向で考える。(マイナス意見を建設的な意見と考え変えるところは変えた上で)

【青森、岩手、福島県の意見】

②今年度から開催を休み、マイナス意見について解決の道を探りながら時間をかけても更に良いものとして研修会を生まれ変わらせた。【宮城県】

③青森、岩手、福島県では開催し宮城県は今年度開催を休み、これまでの振り返りに充てる。【折衷案】

▽採決の結果③の意見が多数。

今年度の研修会は宮城県を除いて開催する。宮城県はこれまでの振り返りをし、次回開催の参考にすることが合意された。今後は役員会で中身をまとめ、9月の定例会で、今年度の開催案として議案化することを確認した。

【議案2】信徒会長(教会委員長)の集いの開催について

青森県 ・大賛成である。同じ立場の者が集まることにより、活性化につながる。

岩手県 ・7対3で賛成。反対も条件(単なる集まりにならないように良く準備する)付きで賛成。

宮城県 ・反対、教会毎(大、小)の問題が違いかみ合わない。

・具体的な教区の宣教司牧計画等が話し合われるのならば賛成

福島県 ・是非、開いて欲しい(信徒・積極的に賛成ではない。むしろ若い方がたの集まりを企画して欲しい。(司祭)

▽採決の結果、賛成意見多数につき、開催することが決議された。

今後は宣教司牧評議会役員会が各小教区、司祭評議会より意見を聞きながら準備にあたる。

【議案3】教区大会開催について

青森県 ・教区との一体感を感じる場が欲しい。仙台教区75周年のお祝い会を開いたらどうか。

岩手県 ・賛成。

宮城県 ・賛成できない。準備に使うエネルギーを別に使えば良い教区にはそれだけの余裕はないはず。

福島県 ・賛成。情報交換の場は必要!(信徒)・反対(司祭)。

▽各県の司祭、信徒の意見を聞いた後、更に意見交換がなされた。

(4 P. に続く)



・やめることに意義を見いだすのではなく、やることに意義を見いだす。現在の状況だからこそ、やることに意義があるのでは？

・教会の中の内向きなことは、教会の外に目を向けなければいけないのでは？

・今後やることになって司祭評も共に企画出来るのであれば、良いものが出来るのでは？

・この一年間を教区大会の一年にする。こんな形は可能なのか？

▽採決の結果、賛成意見10名。反対意見4名。9月の定例会までに意見を集約し、そこで決定との意見2名であった。従って開催することが決議された。

今後は宣教司牧評議会役員会が各小教区、司祭評議会より意見を聞きながら、2年後の2011年の開催を目指し準備にあたる。

以上議事を終了。

【連絡・報告】

1. 人権を考える委員会(園部氏)

・ハンセン病問題について、一昨年シンポジウムの記録集、ハンセン病市民学会、第3回群馬記録集をテキストにして勉強会を行って

いる。内容は教区報を通じて、情報発信している。3月7日に行う

「新厚い壁」上映会への協力をお願いしたい。年度ごとの事業計画作成。5月鹿児島県ハンセン病市民学会に出席予定。7月、社会司

民学会に出席予定。7月、社会司

教委員会主催の人権シンポジウムに協力。委員会としてパネル展示を予定している。外国人ヘルプデスクでは今年度は5件の相談があった。今後も専門機関への橋渡しとしての役割を果たしていきたい。

2. 青少年担当者 (舟山師)

・試行錯誤の一年であった。教区全体の活動の為に、先ず仙台中央地区の青年会を育てることから始めた。WYDシドニー大会に参加し、日本版へも青年と共に参加したが、その収穫を今後の青少年活動に活かしたい。6月に青年連絡協議会主催の「あつちこつちミサ」の開催予定。青年層の人材育成が欠かせないことを痛感している。

3. 各県からの報告・連絡事項

宮城県 7月5日に石巻にて県大会開催予定。テーマ「集い！語り合い！祈る！」。

福島県 9月27日県大会予定。

11月15日活性化研修会開催予定。修女連 来年度は役員改選。役員決定の際に報告する。

施設整備協力制度 規約改正があったので、新規約を配付。今後担当者にも郵送する。

閉会の祈り 佐藤守也師

▽次回、宣教司牧評議会役員会は

4月18日(土) 13時

▽宣教司牧評議会定例会は9月23日(水) 11時から。

(議事録から)

2009年度 教区司祭団の役割分担 (敬称略) ◎責任者

教区本部

司教 平賀徹夫・司教総代理 梅津明生・事務局長・教区会計 小松史朗

司祭評議会

◎平賀徹夫・梅津明生・小松史朗・首藤正義・氏家和仁・会津隆司・佐藤修・小野寺洋一・舟山亨・板垣勤・ヴァレラミゲル

宣教司牧評議会

◎平賀徹夫・梅津明生・小松史朗・川崎忠紀・小野寺洋一・板垣勤・ヴァレラミゲル

青少年担当

◎舟山亨

司祭召命活動

◎梅津明生・小松史朗・氏家和仁

・会津隆司

・会津隆司

◎氏家和仁・小松史朗・会津隆司

◎平賀徹夫・梅津明生・小松史朗

◎首藤正義・会津隆司・佐藤守也

◎小野寺洋一

◎梅津明生・平賀徹夫・小松史朗

◎佐藤修・横島健二・渡辺彰宏

◎平賀徹夫・梅津明生・小松史朗

◎梅津明生・小松史朗

センター管理運営 ◎梅津明生・小松史朗 中央協関係 他

(典礼委員会) 首藤正義 (難民移住移動者) 佐藤修 (カリタスジャパン) ヴァレラミゲル (カトリック障害者連盟) 土井勝吾

学校法人 東北カトリック学園

理事長 佐藤守也・常任理事 会津隆司・理事 平賀徹夫・渡辺彰宏・評議員 梅津明生・小松史朗・佐藤修・小野寺洋一

社会福祉法人カトリック児童福祉会

理事長 梅津明生・評議員 鷹賀達衛・監事 渡辺彰宏

財団法人 光ヶ丘スペルマン病院

理事長 鷹賀達衛・理事 土井勝吾

司教総代理の任命を受けて



梅津 明生 新教会法典によれば、教区司教は自己を助ける司教総代理を任命することになって

おります。わたしはその責任を果たすのにふさわしくないのであることを知りつつその任を受けました。

仙台教区の司祭団が一致してみ旨を果たすことが出来ま

すよう、司教様の足を引っ張りながら、微力を尽くしてまいりたいと思っております。どうぞ皆

様のご協力をお願いいたします。

ます。

仙台教区内には53の小教区と12の巡回教会があります。手元にある司祭の名簿によると、教区内で働いておられる現役司祭の人数は、平成15年度には53名でしたが、平成21年度には36名に減少してしまいました。高齢化に伴い、近い将来にはさらに司祭の減少が予想されます。司教様の大きな悩みは、司祭の派遣のことであると思

います。 週の初めの日、即ち「主の日」には共に集まり、神への賛美と感謝をささげ、みことばとご聖体に生かされることは、私たちカトリック信者にとつては大きな恵みです。しかし、教区内のどこの教会においても主日祭を派遣することは不可能な時代になってきました。それゆえ、若い方々が自分の人生を考

えるとき、一度は司祭・修道者の生き方をも是非考えてほしいと願っています。 たとえ司祭の人数が減り、各小教区の共同体が高齢化に向

かって行こうとも、信仰によって結ばれ、助け合いながらその地域の方々に福音を証しして

いける、生き生きとした信仰共同体を保つことができま

すよう、

ます。

おめでとう!! 司祭叙階★金祝☆銀祝

金祝 叙階50年



ツゲル・アントニオ神父
ベトレヘム外国宣教会
1931年 6月15日生
1959年 3月22日叙階

1960年11月来日

一関・盛岡上堂・花巻の各教会で司牧、現在は盛岡地区協力司祭
3月22日(日)花巻教会で、平賀司教主司式の祝賀ミサと祝賀会が行われ、100人近くの信徒がツゲル神父の金祝を祝うために駆けつけた。

神父の生き方に触れて

高橋 昌神父(白河・須賀川教会)



少年の頃のクリスマス、真夜中のミサ後、私は神父様のベッドで寝ることができた。神父様はどこで寝たのでしょうか。神父様の温かさを感じた。戦後まもなく一関教会はドミニコ会のヴェイエット神父様が担当し、特に小、中、高校生が数百人も教会に通っていた。教会が明るく輝いていた。高校一年で受洗の時、父が反対していたので、当時のベトレヘム会のガルトマン神父様が家に来て、父を説得してくれて、



銀祝 叙階25年

板垣 勤神父



師の温和でやさしい人柄と宣教に対する情熱は、多くの人々に慕われている。
1949年 9月18日生
1984年 3月20日叙階
仙台、築館、青森、東京・会津若松の各教会で司牧。

一関教会の献堂式の日に洗礼を受けた。神父様のやさしい父親の姿に感謝した。
高卒後、一年間、岩手県の千厩教会で、ベトレヘム会のシュトレーベル神父様とヨハネ神父様のもとで、住み込みで教会の

招きにくたえて

24

手伝いをした。神父様方の毎日の祈りと宣教・司牧の熱意に感激した。そして神学校に進んだ。作家井上ひさしが恩人としてヴェイエット神父様との対談をある雑誌にのせている。
グザル「開戦の時、私たちは群



3月22日(日)、会津若松ザベリ才学園講堂で、祝賀のミサ。写真とお祝い会が行われ県内外から

告知板

- ◇テゼの祈り◇
[日 時] 6月5日(金) 午後7時~午後8時30分
[場 所] カトリック松木町教会にて
[連絡先] 定方 一悦 024-545-6851
Sr. ラマーシュ 024-534-4412
[主 催] カトリック松木町教会 「いずみとぶどうの会」
- ◇「春の後藤寿庵豊作大祈願祭」◇
[日 時] 5月31日(日) 午前10時
[場 所] 岩手県奥州市水沢福原 寿庵廟前
[主 催] カトリック水沢教会寿庵祭実行委員会
- ◇三経塚キリシタン殉教ミサ◇
[日 時] 6月7日(日) 11時~
[場 所] 東和町綱木農村公園・三経塚
[共 催] キリシタンの里まつり実行委員会 カトリック築館教会

銀祝 叙階25年

尹 汝沃(ユン・ヨオク) 神父



1955年7月31日生
1984年2月17日
韓国大田(デジョン)教区大興洞(テフンドン)教会で叙階
2004年3月来仙
仙台中央地区・気仙沼教会で司牧、現在は、一関・水沢・千厩教会協力司祭。東北大学文学部大学院にて東北地方のキリシタンについて研究をしている。また、毎月一回、元寺小路教会で韓国語ミサを行っている。

馬島の飛行機工場で働かされていた。井上「カナダへお帰りになる方法もあつたはずですが」、グザル「より困難な道を行き、より辛い方を選び、そしてよく祈り、よく働け。これがドミニコ会員の生き方です。この文章に触れ、一関での神父様の姿を思い出している。
なお、ヴェイエット神父様は、今私が司牧している白河教会の墓地に眠っている。命日は6月2日。白河教会では毎年、命日の前の日曜日(今年は5月24日)に墓地ミサを行っている。私は召命の原点を思いながら。

喜びの声：復活祭に洗礼を受けて

今年も復活祭に洗礼の恵みを受け、信仰の道を歩みだした方々が多数おられます。その喜びの声を紹介します。

▼八戸塩町教会

パウロ 塚原良一 70代

マリア 塚原美和子

受洗のきっかけは、八戸聖ウルスラ学院理事長ノエラ・ゴドロ先生からすすめられ、背中を押される感じで受洗を決意した。幸い妻も賛成ということで、夫婦二人で受洗することになった。氏家神父の指導により、月2回のペースで『カトリックの教え』で要理を学び、聖書を読み、森司教著の『続 愛とゆるしと祈り』などを読み、さらに理解を深めた。



その後、兄が他界してから、私は兄と共にイエス様に仕えたいという思いがふくらみ、日中の教会で一人お祈りしていました。信徒の方々との巡り会いがあり、そこからトントンと物事が進み、受洗へと導かれたのでした。イエス様は、求めなさい、そうすれば与えられるとのお言葉どおり、すばらしい贈り物を与えてくださいました。

受洗した現在は、心が軽くなり、視界が明るくなったと二人で話している。昨日（復活祭）は、近くのカトリック墓地に散歩に行き安井神父の墓前に報告し、墓地の枯れた花を片づけて帰ってきた。

▼弘前教会

マリア・フィデレス 島川理恵子

30代

小さい頃に御ミサにあずかり、マリア様に一目で魅入られ、それ

▼元寺小路教会

アンデレ 伊勢 大祐 30代

昨年3月、フランソワ・クレーランの「ルソン・ド・テネブレ」をFMで聴いたのが、受洗を決めたきっかけです。朝6時から始ま

この音楽番組をマリア会の生徒当時からほぼ欠かしたことがない私にとつて、クレーランなどルクレール同様すでに朝餉のにおいみたいなもの（一度こういうキザな書き方をしてみたかったです。お笑ください）なのに、この時は、なぜか寝床の中ではつと胸が詰まり、目を何度もこするようになり、気がつけばシスター長谷川昌子の誠意に満ちた講座に通い、そこで疎かにできない多くの知遇を得ていました。あれは息吹がぐだつた朝だったのだと、いま、確信しております。

▼アグネス佐藤 葵 9歳

わたしは白百合学園小学校の4年生です。わたしは1年生の時、担任が木村先生でした。それまでわたしはいつか洗礼を受けたいと思っていました。ただお母さんが教会のミサに行くのについていくだけで、自分から何かをしようとはしませんでした。木村先生は校長先生に神様の勉強をして下さるように頼んでくれました。それから半年位、校長先生は、わたしでもわかるように神様のことを教えてくださいました。そして、そのあとは、日曜学校でさらに勉強をしました。洗礼を受けたこれからは、神様の子供として、ふさわしい行いをしたいと思えます。心の中でいつも神様によびかけていたいです。

▼野田町教会

レオ 阿部 実 40代

昨年10月より、トマス神父様との勉強会が始まりました。最初は何もわからないことばかりでしたが、トマス神父様の熱心に教えてくださる姿勢に感謝し、毎回の勉強会が楽しみになってきました。聖書を読んでいることが、毎日の日課になりました。勉強会をするたびに、自然に洗礼を受けたい気持ちになって、復活祭に洗礼を受けました。

▼浪打教会

マリア・エステル 高森真紀子 50代

最愛の息子を病気で失ったことが、信仰を求めることになりました。息子の短い一生は、生きる大切さと支えられる感謝の気持ちを感じさせてくれました。命とは必ず目的があり、神様からの使命をもつて生きているのだと感ずきます。そして、苦難は、人の支えを求め、感謝することによって、心をさらに強くしていくのだと思います。もう一度心を丈夫にしていきたいと思います。信仰が必要であると考えました。

▼青森本町教会

マリア・クララ 岩見生子 60代

平成16年4月桜満開の頃、突然夫は脳内出血で亡くなりました。あまりにもあつげなく夢のようにこの世から退場した夫とは別に、残された私はショックと絶望と、どうしようもない悲しみや喪失感で苦しみました。

平成17年5月、風邪をひいて病院からの帰り、教会の玄関に入っていました（時々通る道なのに、なぜそうしたのか今でもわかりません）。中からお入りなさいと声がしました。見るとシスターが微笑してじつとこちらを見ていました。この人はだれ？（後でわかったのですが、マリア院長 Sr.ゲルトラウデさんでした）。帰りに、一週間の火曜日だけに日直にきていますから、よろしかったらどうぞと言っていたきました。

7月に入ってからだと思えますが、何となくシスターに会ってみたいくて教会へ行きました。それが聖書との出会いです。去年私は検診で、脳動脈瘤が見つかり、手術を受けました。今まで神とか信仰というものに無縁だったのに、洗礼という言葉が頭をよぎりました。

各地から

福島県

松木町教会のミサ典礼について

主日のミサについて、松木町教会「写真」として典礼を美しく荘厳にするために工夫している点についてご紹介いたします。

時間になりますと鐘が鳴ります。入祭の歌と共に、蠟燭を持った侍者2人を先頭に、もう1人の侍者、朗読者2人、聖体授与の臨時の奉仕者2人、司式司祭の順で入堂します。朗読者も、ミサ中、内陣に位置します。通常、侍者は子供2人、大人1人の3人です。



第一朗読は男性、第二朗読は女性が行ないます。これは当教会の習慣です。なお、外国人信徒が比較的多いことから、毎月第2日曜日の第二朗読は英語で行ないます。この時は奉納の歌も英語の歌になります。

共同祈願では、教皇様の意向、司教様の意向、司祭・修道者の召命の意向が必ず入ります。奉納者2名は、聖堂中ほどの通路際に待機し、侍者2名が蠟燭を奉持して、迎えに行きます。残りの侍者は司祭が受けたぶどう酒と

水を司祭から受け取り、祭壇脇の小テーブルに置きます。侍者が小学低学年生の場合、聖体奉仕者の一人が代りをします。この間、聖体奉仕者は祭壇脇小テーブルからコルポラレ・祭器等を祭壇に置き、侍者の一人は他方の祭壇脇小テーブルからミサ典書を祭壇に運びます。奉献文は、大祝日及び何らかの記念日等には第一奉献文が読まれ、他は第三、そして稀に第二、第四奉献文が読まれます。毎月第三日曜日は子供によるミサで、子供用ミサ式次第・奉献文になります。朗読・奉納も子供が行ないます。

聖変化の時の鈴は、祭壇の両側に控えた子供の侍者が鳴らします。一つの鈴の音が一致するのは見事です。聖体拝領は、司祭を中心に聖体奉仕者2人が両脇で配ります。行列は二列で、信徒は司祭か聖体奉仕者から拝領します。これはスムーズにうまく回っています。なお、聖体拝領の行列には、祝福を受ける人も加わりますが、祝福は司祭から受けます。

拝領の歌の後、司祭による祭壇上の祭器等の整理から沈黙のための着席までの間、旋律が簡単で、短く単純な歌詞を繰り返す「デゼの祈り」を歌います。この場合、比較的ラテン語の歌詞の歌が多いです。大祝日の他、特別の時は、献香を行ないます。入祭のあいさつの前に祭壇に、福音朗読前に聖書に、福音朗読中には傍らで侍者が香炉を振り続けます。奉納の後には祭壇に行きます。香炉持ちには大人の侍者が当るか、あるいは侍者が1人増えます。香が焚かれ、芳香あふる煙りが立ち上がる光景は素晴らしいです。時には、撒水が行なわれることもあります。全体として、典礼聖歌とカトリック聖歌集を中心とした歌ミサになつていきます。ミサ典礼において、なるべく多くの奉仕者を得ること、ミサ典礼を大切にすることが主任司祭の方針です。(佐藤英夫)

宮城県

大河原教会修復計画

毎年、シロアリ駆除消毒を続けていたにもかかわらず、1915年建設の大河原教会「写真」は、土台、柱下部の腐食が相当進んでいました。そう遠くない時期にマグニチュード6や7の地震が起きる予想が報じられている昨今、ミサの最



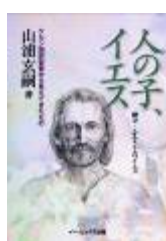
中に地震が来たらどうしようと考えることがしばしばありました。

ありがたいことに、3月8日(日)ミサ後、北仙台教会・伊藤雅敏氏より補修計画について内容を伺い、同月下旬には、「カトリック大河原教会補修計画実行委員会」が設立されました。補修箇所、予算、敷地内にある幼稚園の園児への安全を考慮した補修時期など、課題山積の中、大槻和利さんを中心に、補修計画を進めています。なんとか補修を成し遂げなければならぬと願う教会メンバーは心を一つにして、協力しようとしていますので、クリスマスには安心してお祈りが出来るものと確信しています。2月15日に行われた第7回教区活性化研修会に参加しましたが、活性化の意味とは何か? 会員増加か? 教会の行事の多様化か? などなど多々の意見が出されましたが、小教区の信徒が何かをしようとして致して実行することも活性化の源になるのかもしれないと考えるこの頃です。(大沼 忠)

岩手県

『人の子、イエス』を出版

大船渡教会の山浦玄嗣氏は、2002年に『ケン語訳新約聖書マタイによる福音書』を出版以来、4福音書を半年おきに出版。それと同時に日本語聖書における様々な問題を『ふるさとのイエス』『走れ、イエス!』などに著してきました。



使ってみてはいかがでしょうか。また来る5月10日(日)にはカトリック郡山教会にて、10時30分から山浦氏の講演会が行われます。なぜ地元の方言で聖書を翻訳しようとしたのか、そして方言の聖書がなぜ全国に共感の輪を広げているのか。そのお話をじっくりと聴けるチャンスですのでぜひお出かけください。

訃報



スール・マリ・ポール 三木 赤間 たい子 0.P

1921年11月29日生 聖トミニコ女子修道会中島丁修道院にて2009年3月23日帰天 誓願後60年 87歳

活動紹介

仙台中央地区侍者会

聖週間に向けて侍者講習会

4月4日、元寺小路教会で復活祭に向けての侍者講習会が開かれました。数年ぶりに開かれたというこの侍者会。当日は



私の気分転換

豊屋丁教会 斎藤弘生

週に数回、近くの教会所に行き、囲碁で気分転換をしています。下手の横好きでただ夢中で囲碁を楽しんでいます。教会所の仲間は定年退職後の60歳代から90歳代までの男性ばかりです。私たちの囲碁は、NHKテレビドラマの篤姫のような優雅な囲碁ではなく、相手の石を取りに行くという殺風景なものです。相

春休みということもあり、仙台中央地区6教会の小中高生およそ40名が集まりました。

講習会は午前と午後の2部で行なわれ、午前中は、ダビデ神父様によるスライドを使った説明と、エメ神父様による祭器具の説明がありました。難しい祭器具の名前を覚えようと必死になっていた子どもたちの姿が印象的でした。

昼食で保護者の方々が作ってくれたカレーライスを食べた後、午後からは大聖堂に場所を移しての実践練習が行われました。祭器具を手にし、入堂から退堂までの一連の流れを繰り返し行い、会の締めくくりとして平賀司教様によるミサ

がささげられました。

御ミサの終わりに、平賀司教様から子どもたち一人ひとりへ直接「修了証」が手渡され、修了証を手にした子どもたちは、頑張つてよかった、と証書を大切に持ちながら話していました。(三島)

西仙台教会100年史を発行

西仙台教会では、去る3月15

日に「カトリック西仙台教会100年史」(218頁)を出版いたしました。私たちの教会の100年の歴史を、何とか本の形で世に問いたいという話が最初に出てからもう9年の歳月が流れ去りました。当時は、当教会に常駐される司祭がいなくなった時期でもあり、また教会の統廃合の噂もどこからか聞こえてきた時期でもありました。その意味では皆、口には出しませんでしたが、教会のあり方について悩んでいた時期でもありました。そんな折に、「うちの教会は設立後そろそろ100年になるのでは？」という話が信徒たちの間で話題になり、100年になるのなら記念になることを何かしようという事になりました。そんなきつ



新刊案内

『メッセージ』

—殉教者から現代の教会へ—

著者 溝部 脩 / 発行 サンパウロ

／定価 1000円＋税

「ペトロ岐部と187殉教者」の列福式が、昨年長崎で行われたのは記憶に新しいところですが、その準備に仙台教区も溝部司教を招いて講演会を行いました。同様の準備講演会を各地で開催されましたが、本書はその成果と言えるでしょう。

本書が他の殉教者の伝記と違うところは、本書のタイトルが「メッセージ」であり、それも「殉教者から現代の教会へ」というサブタイトルが付けられているところを見ても明らかのように、著者が現代の教会共同体、またそのメンバー一人ひとりを念頭においておられるということが特徴となっています。

取り上げられている殉教者は、原主水、結城了雪、小笠原みやなど10人にすぎませんが、それぞれの福者を紹介しながら、彼らを取り巻く多くの殉教者をも描いています。

各人物には、読者に分かりやすいように、それぞれ現代の私たちに考えるヒントとなる小見出しが付けられています。一例を挙げてみますと、ヨハネ原主水には「人生はやり直しがきく」とあり、最後のペトロ岐部カスイには「混沌たる時代に訴える聖者」と付けられています。

最後に講演そのものを書き下ろした内容がついていますが、淡々と語られているだけに、列福式までの日本の教会の歩みが、その苦勞、努力と共に心にしみいります。



(上野 隆)